

火車の誕生

勝田至

Birth of Kasha

KATSUDA Iharu

はじめに

- ① 中世の火車
 - ② 近世の火車
- おわりに

【論文要旨】

近代の民俗資料に登場する火車は妖怪の一種で、野辺送りの空に現れて死体をさらう怪物である。正体が猫とされることも多く、貧乏寺を繁昌させるため寺の飼ひ猫が和尚と組んで一芝居打つ「猫檀家」の昔話も各地に伝わっている。

火車はもともと仏教で悪人を地獄に連れて行くこととされる車であったが、妖怪としての火車（カシヤ）には仏教色が薄く、また奪われる死体は必ずしも悪人とされない。本稿の前半では仏教の火車と妖怪の火車との繋がりを中世史料を用いて明らかにした。室町時代に臨終の火車が「外部化」して雷雨が墮地獄の表象とされるようになり、十六世紀後半には雷が死体をさらうという話が出現する。それとともに戦国末には禪宗の僧が火車を退治する話も流布し始めた。葬列の際の雷雨を人々が気にするのは、中世後期に上層の華美な葬列が多く見物人を集めるようになったことと関係が

ある。

猫が火車とされるようになるのは十七世紀末のころと見られる。近世には猫だけでなく、狸や天狗、魍魎などが火車の正体とされる話もあり、仏教から離れて独自の妖怪として歩み始める。悪人の臨終に現れる伝統的な火車の説話も近世まで続いているが、死体をさらう妖怪の火車の話では、死者は悪人とされないことが多くなった。人を地獄に連れて行く火車の性格が残っている場合、火車に取られたという噂がその死者の評判にかかわるといふ問題などから、次第に獄卒的な性格を薄めていったと考えられる。

【キーワード】 火車、地獄、猫檀家、葬式、雷